

ナスの夏場の管理

ナスは乾燥を嫌います。また、肥料切れになると弱って実の成りが悪くなります。夏場に思い切って、剪定してやると、元気を取り戻して秋に元気になり、収穫できます。

I 切り戻し(更新剪定)

8月上旬になって実つきが悪くなってきたら、思い切って切り戻す。

- ① 収穫の最盛期を過ぎるとわき芽が出てこなくなるので、花が咲かなくなり結局、実つきが悪くなる。(8月上旬頃)
- ② 3本仕立て(2本仕立て)の場合、各枝の葉を1～2枚残して切り戻す。
- ③ 地上部を切り戻したら、株元から約30cm離れたところにスコップを深く差しこんで根を切る。こうすることによって地上部と、地下部のバランスをとる。
- ④ スコップを差し込んだところに緩効性の肥料(約30g)を施用する。
- ⑤ 根を切ったところから新しい根が出てくる。地上部はわき芽が伸びてきて花が咲く。

*このようにすると10月下旬まで順次、実を収穫することができる。



切り戻し(更新剪定)

サツマイモ(ヒルガオ科)

今年は、雨がよく降り、土が湿っています。サツマイモは元気に生育しながらいろんなところの節から根を出します(不定根)。これをそのままにしておくと、そこからも肥料分を吸収して、養分過多になります。これを防ぐためにつる返し(つる起こし)をします。肥料はやらない！

つる返し

サツマイモは生育しながら節から根を出す(不定根)。この根が土に入って養分を吸収すると、養分過多になる(つるボケ：地上部ばかり茂り、イモの生育が悪くなる)。

これを防ぐためにつるごと裏返すようにして株元以外の根を土から離す。



つるの節から出てくる不定根が根付かないように
つるを持ち上げて「つる返し」をする

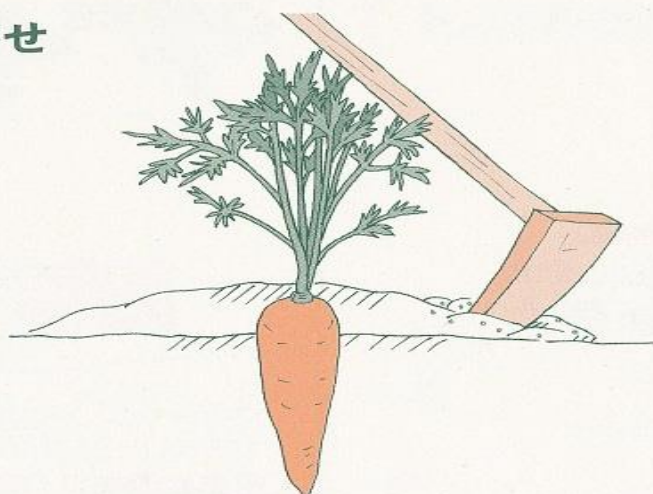
ニンジン（セリ科）＜播種（露地）＞

特 徴	春まきが多いですが、秋まきでも冬春にかけて収穫できます。 日当たりがよく水はけの良いところを好みます。 ミニニンジンは生でサラダなどに使えます。
播 種 の 時 期	8 月中旬～9 月下旬 収穫 12 月中旬～3 月上旬
土 の 準 備	1 ヶ月前 耕起：30cm 苦土石灰：150g/m ² 最適 pH：5.2-6.5 2 週間前 乾燥牛糞堆肥：3 kg/m ² 数日前 化成肥料(8-8-8)：100g/m ² 過リン酸石灰 ： 30g/m ² 畝の高さ：20cm
発 芽 難 度	難
播 種 前 の 種 の 処 理	・タネを一昼夜水に浸して吸水させ発芽しやすくする。
播種時の注意	条間 20cm ですじまきする。薄く覆土する。 ニンジンの種子は「好光性」といって、土を厚く覆うと発芽し

播種時の注意	にくくなる。フルイなどを使ってごく薄く土がかくれるほどでよい。タネをまいてその上を、トイレトペーパーかティッシュペーパーで覆うと水やりの時タネが流れにくく、発芽する頃にはペーパーは水に溶けてしまっている。
播種後の管理	・発芽したら混み合うところから間引き始め、本葉 5～6 枚で 12cm の株間にする。ミニニンジンなら 6～8 cm にする。 ・月 1 回 50g/㎡の肥料をまく。 ・ニンジンの肩が見えてくると緑になるので土寄せする。 ・タネをまいてから 100 日頃が収穫の目安。ミニの場合なら 80 日前後 ◎間引いたニンジン葉の部分はニンジン葉としてサラダやスープの愚にできる。
病 気	うどんこ病：重曹
害 虫	
そ の 他	他の作物とコンパニオンプランツになる。

- ・施肥の目安（堆肥：スコップ 1 杯：2kg、苦土石灰 1 握り：約 40g、化成肥料 1 握り：約 30g、1 つまみ：約 2g）

追肥、土寄せ



月 1 回、化成肥料を 1 ㎡あたり 50g ばらまき、株元に土寄せします。根肩に日が当たると青くなるので、こまめに土寄せして、根肩がかくれるようにします。

コンパニオンプランツ(COMPANION PLANTS)

コンパニオンプランツとは、複数の植物を組み合わせで植え、お互いの性質の違いによって病気や害虫の発生を防いだり、生育を促したりする関係を持っている植物のこと。(共栄植物、共存植物ともいう)

害虫を寄せつけにくい作物

キク科植物 キク科植物には独特の香りや味があります。それは多くの害虫が苦手とするものがあります。

・ キクナ[菊菜](シュンギク)

モンシロチョウやコナガが寄りつかない。忌避(きひ)効果(こうか)があります。

キクナとほかの葉もの野菜(アブラナ科野菜)を混植するとアオムシやコナガが付きにくい。

【混植に向く作物】 ハクサイ、キャベツ、チンゲンサイ、コマツナ

・ レタス(レタスはキク科です)

コマツナ[小松菜]や他のアブラナ科植物(たとえばダイコン[大根])と混植するとアオムシやコナガが付きにくい。

【混植に向く作物】 コマツナ、キャベツ、ダイコン、ホウレンソウ、ナス、カボチャ、ズッキーニ、スイカ、シロウリ

・ マリーゴールド

花として観賞するマリーゴールドも野菜と混植すると害虫が付きにくくなる。

【混植に向く作物】 ダイコン、トマト、ピーマン、ナス

アブラナ科植物 × セリ科植物

小松菜、チンゲンサイ、キャベツ(アブラナ科)につくモンシロチョウの幼虫はニンジン(セリ科)の葉の独特の香りを嫌う。

ニンジンの葉をすりつぶして水で薄め、霧吹きでアブラナ科植物にかけるとモンシロチョウが近寄らなくなり、幼虫の食害を防ぐ。

ニンジン(セリ科) × ホウレンソウ(アカザ科)

ホウレンソウの葉をすりつぶして水で薄め、霧吹きでニンジンにかけると。

ニンジンにつくアゲハチョウ(キアゲハ)がホウレンソウのにおいが苦手。

ナス(ナス科) × 長ネギ(ユリ科)

ナスの出す不用物質を長ネギが、長ネギの出す不用物質をナスが利用する。

ネギとナスを一緒に栽培すると、お互いの不用物質を利用し合って栄養状態がよくなって、生育がよくなる。

キュウリ(ウリ科) × 長ネギ(ユリ科)

同上

夏野菜の管理と夏播きニンジン

<梅雨あけ後の夏野菜の管理>

○この時期の土壌の管理

- ・ 果実の収穫や高温により樹勢が弱っている時は、夕方の灌水前に m^2 当たり 3 L の腐葉土に化成肥料(8-8-8)20g を混ぜて株の周辺に施しその後にたっぷりと灌水をします。
- ・ 灌水・多雨による土壌の締まりや乾燥・高温を軽減するため敷きワラやモミガラや腐葉土など入手しやすい有機物を畝の上に敷きます。
- ・ 青枯れ病などの土壌病害の発生を軽減するために、畝の排水を良くし、同時に土中の根を切るような作業（追肥、植え替え等）は避けてください。

○トマト、ナス、キュウリの樹勢回復のための管理

- ・ トマトは、5 段目の花が開花していればその上の葉 1 枚を残し 6 段目の花を持つ芯を除去し、こまめな夕方の灌水により果実の肥大や着色の促進を中心に進めて行きます。
- ・ ナスは、7 月下旬から日の長さが短くなりさらに枝葉のかさなりで、9 月以降からは開花・果実肥大が遅れていきます。7 月下旬～8 月上旬の時期に混み合っている枝・細い枝は剪定ハミで除去し、株内に光が入るようにして樹勢回復を図ります。
- ・ キュウリは、果実肥大と土の乾燥のため急に樹勢が弱りますので、小果での収穫や灌水・追肥を怠らぬような管理が大切です。

○その他夏野菜の管理

- ・ **スイカやメロン類**は多肥状態だと雌花がつきにくいため、子づる、孫づるの強弱の状態を追肥の時期・量を判断します。つるの先端が蛇の鎌首みたいに伸びあがってきた時はツルの勢いが強く追肥時期はまだ先です。鎌首が降りてきた時や第 1 果が肥大始めた時に次の雌花が落ちた時は追肥が必要な時です。
- ・ **エダマメ**は開花時期から実の充実期に土に湿り気がある状態だと安定した収量を目指せます。

<8月の作業—秋野菜のための土づくりの準備>

- ・ **ハクサイやキャベツ**は、年内収穫を目指すなら 8 月下旬までに苗を植えます。そこで 8 月中旬に苦土石灰と堆肥・腐葉土を入れて耕起し、8 月下旬までに元肥や畝づくりをおこない、苗が植えられる準備をします。

<夏播きニンジンの育て方>

○ニンジンの特性

- ・ アフガニスタンが原産地と言われているセリ科の野菜。生育適温は 18～22 度で 3 度以下の低温では根の肥大が停止し 12 度以下になると根の着色が悪くなります。また種まき後 35 度以上になると発芽がしなくなります。
- ・ 種まき後から出葉までを乾燥させると発芽率が極端に下がります。
- ・ 根菜なので植え替えをすると根の形が崩れるため直播きをして育てます。

<7 月の作業>

○種まき時期は

正月おせち用の金時ニンジンの種まき時期は 7 月中旬から 8 月上旬です。11～12 月頃収穫の 5 寸洋ニンジンの種まき時期は 7 月下旬から 8 月下旬です。

○土作りは

m²当たり腐葉土 1.5 kg、醗酵牛糞 1.5 kg、苦土石灰 100 g と化成肥料(8-8-8)を 120 g 施用し攪拌し、畝の高さを 30 cm 以上の高畝にします。

○種まきは

深さ 1 cm ぐらいの溝に種を播き軽く覆土をします。さらに乾燥防止や雨や灌水による種の流亡を防ぐため播き溝に切りワラやモミガラを敷きます。

その後、畝全体が湿るまでたっぷり水置きをした後、地温低下と乾燥軽減のため畝の表面にもモミガラを敷きます。

<8－10 月の作業>

○病虫害は

根腐れ病—根が斑点状に黒く腐り広がるため、早目に収穫をします。

キアゲハ—緑色の大きな幼虫が葉を食害します。葉の間にいる小さい時の幼虫を見つけて捕殺します。

○間引きは

種まき後、十分な土壌水分があれば 1 週間後に発芽します。

本葉 2 枚時、本葉 4 枚時、本葉 6 枚時（金時や 5 寸ニンジンでは最後の株間は 20 cm 程度）の 3 回に分けて行います。

○追肥は

本葉 4 枚時、本葉 6 枚時の間引き後に m²当たり化成肥料（8-8-8）を株間か条間に 20 g 程度を施用し、その後に灌水をします。

秋冬野菜の栽培ワンポイント

7月から8月は秋冬野菜の植え付け準備や植え付け、播種の時期です。
今月は秋冬野菜の栽培の注意点をまとめました。

1. 品種ごとに播種や定植時期を守る

光量が次第に少なくなっていき、気温も旧盆を過ぎると次第に下がっていきます。9月後半になると年によっては気温が急に下がることもあります。



※秋冬野菜の栽培ではそれぞれの品種ごとの播種や
苗の植え付け時期を守ることが最も大切
特に以下の野菜は、それぞれの品種ごとに決められている
播種あるいは定植の適期を守ること！

- ・ キャベツ、ハクサイなど結球させて収穫する葉菜類
- ・ ダイコン、ニンジン等の根菜類
- ・ ブロッコリなどの野菜

早すぎると気温がまだ高いため発芽不良や生育不良になったり、気温が適温に下がるまで結球しないなどの生育異常をきたします。

逆に、遅れると結球開始時までの生長が不十分なために結球しなかったり、根の肥大が悪くなります。

特に晩生品種は長い栽培期間を必要とするので適期を守ることが重要です。

<収穫期間を長くするためには>

- ・ ハクサイでは、早生あるいは中早生の品種を栽培可能期間の中で半月程度ずらして植える。
- ・ コマツナ、ミズナ等の葉菜類は播種時期を 10～14 日ほどずらして順次に播く。

2. 施肥

ダイコンやニンジン等の長根性の根菜類の肥料による岐根少なくするには。



早めに施肥を終え、播種までの間に降雨に数回遭わせ、
肥料を土の中で溶解させておく。

播種までの準備日数がとれない場合は、播種前には苦土石灰などの石灰資材だけを施用してすき込み、発芽後に化成肥料を発芽株の周囲に施用するのの一法です。

ハクサイやキャベツでは、葉の肥大を促すために、

1 回目の追肥：定植して半月後に、株の周囲に化成肥料(8-8-8)を
70~80g/m²

2 回目の追肥：更に 14-20 日後に同程度与える

結球性野菜では外葉が十分に肥大していないと結球不良となります。

3. 土の耕耘

ダイコンやニンジンで、根の先端に異物(小石、化成肥料の粒、熟成が不十分な堆肥など)が当たると岐根が出やすくなります。

岐根を少なくするためには、

- ・ 播種する区画を 25cm くらいまで丁寧に掘り起こす
- ・ 土をほぐして柔らかくおく
- ・ また、小石があれば取り除く。

根菜類の栽培では「土は十起こし」という言葉があります。10 回掘り起こして土塊をほぐして膨軟にしておくともっすぐなものが収穫できるということです。

4. 暑さ対策

暑い時に播種したり定植するので、暑さ対策を行った方が初期生育が良くなります。

- ・ 黒や銀色の遮光資材や稲わらなどで被覆する
- ・ 土の表面を堆肥などでマルチする



- ・ 地温の上昇が抑える ・ 土の乾燥防止

但し、発芽後や苗を植えて活着した後は、生育状況を観察しながら早めに取り除くようにします。

いつまでも被覆していると光線不足で徒長することがあります。

ニンジンは発芽までに 10 日ほどかかり、この間に **1 度でも土が乾燥すると発芽しない** ➡ 被覆資材を利用した土の乾燥防止対策が有効

発芽後も土が極端に乾燥するとせっかく生えた苗が枯れてしまいます。

本葉 2-3 枚程度までは被覆資材で遮光した方が良いでしょう。

また、播種畝の上面はなるべく均平にして乾いた場所と湿った場所ができにくくすることも有効な策の一つです。

5. 害虫対策

害虫の発生が多い時期ですので防虫ネットや農薬などで防除に努める必要があります。生育初期に害虫の被害を受けると生育が劣る原因になります。

・ヨトウムシ

被害を受けた株の周囲の土を浅く掘り起こすと見つけれられる。

雑食性で食害がひどいので、播種時あるいは定植時に登録のある殺虫剤を処理すると被害が少なくなります。

8-10月が年間を通して最も発生の多い時期になりますので要注意です。

・シンクイムシ(ハスモンヨトウ)、アオムシなどの幼虫

食害が要注意です。

油断して防除が遅れると、数日の間に葉の柔らかい部分は食べ尽くされて筋の部分だけが残ることもあります。

・キスジノミハムシ、サルハムシなど

葉に小さい穴を開け、被害がひどいと生育不良を起こします。

キャベツでは20枚程度、ハクサイでは15枚程度に達すると中心部の新葉が立ち始め結球態勢に入ります。

それまでに展開している葉が小さかったり、害虫の食害を受けると結球不良や不結球になるので、外側の葉は食用部分にはなりません大切に育てる必要があります。

6. 病害対策

秋冬野菜はアブラナ科の野菜が一大勢力です

- ・ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツ、コマツナ、ミズナ、ナバナ、カラシナ、野沢菜などの漬け菜類、ブロッコリ、カリフラワー

これらのうち、ダイコンを除いたアブラナ科野菜の重要病害に根こぶ病があります。

- ・地上部の生育が悪い
- ・根に白色あるいは褐色の5-20mm くらいの不規則な形状のこぶがついている



根こぶ病の疑いがあります。

市民農園でも発生したことがあり、注意が必要です。

根こぶ病はアブラナ科野菜では、世界でも最重要な病害の一つです。

病原菌は休眠胞子の形で、土の中で数年間は生存できます。

土壌伝染性病害で難防除病害にあげられています。

本病の発生はさまざまな環境要因の影響を受けることが知られています。

- ・ 土壌水分：根こぶ病菌は、土壌水分が多いと発発生しやすい。
排水が悪い部分でより多く発生する。
- ・ 温 度：9～30℃で発生するが最適温度は20～24℃。
- ・ 日 長：長日条件下で発生するが、1カ月間の平均日長が11.5時間以下になると発生は激減します。根こぶ病は春から初秋の病気といえます。
- ・ 土壌反応：pH4.5～6.5の酸性土で発生し、pH6.5以上の中性からアルカリ性の土壌では発生は激減します。

根こぶ病が発生した区画での次年以降の対策としては、以下があります。

- ① 高畝で栽培し土を乾燥気味で管理する。
- ② 石灰資材を多めに施用して土壌のpHを6.5以上にする。
- ③ 抵抗性品種を利用する(CR○○などの品種名が付けられている場合がある)。
- ④ むやみな早まき・早植えは避ける。
- ⑤ 土壌消毒を行う。
土壌消毒により土中の病原菌をすべて死滅させることは不可能で、一時的に菌密度を低下させる技術と考えてください。

【豆知識】(奈良県HPより)

－簡単なネコブセンチュウの検定法－

ネコブセンチュウは土中にいて小さく(長さ0.5mm以下)肉眼での確認が困難です。

以下の方法を使えばネコブセンチュウの有無が確認できます。

用意するもの：ホウセンカの種(=ネコブセンチュウが増えやすく根の生育がいい)、3号程度の素焼き鉢

- ① 調べたい畑の土を鉢に詰める
- ② ホウセンカを栽培する。播種適期は4月頃。
- ③ 約30～40日後に根を掘り出してコブの付き具合を調べる
ホウセンカの根にコブが多くついている場合は、ネコブセンチュウ密度が高く、その畑にナス科やウリ科野菜を栽培すると、根こぶ病が出る可能性が高くなります。